

上島町消防だより

夏本番！

水の事故に 備えましょう！

「さあ！楽しい海水浴シーズンの到来です。」

これからの時期、水と親しむ機会が多くなりますが、気になるのは水の事故です。呼吸や心臓が止まった人を助けるためには、早急な心肺蘇生が必要となります。

いざというときのために、心肺蘇生法を身につけておきましょう。

■心肺蘇生法の要領

①意識を調べる

相手の肩を叩きながら「もしもし」などと声をかけ反応をみる。

②助けを呼ぶ

大声で助けを求める。
(119番通報)

③気道確保

(空気の通り道をつくる)

頭を軽く後ろに反らせ、人差し指と中指であごを上を持ち上げ空気の通り道を作る。



④呼吸を調べる

「見て・聞いて・感じて」

相手の口と鼻に自分の頬と耳を近づけ「呼吸音を聞き」「頬で息を感じて」「胸の動きを見る。」

⑤人工呼吸をする

相手の口を自分の口でおおひ鼻をつまんで胸が軽くふくらむ程度2回続けて息を吹き込む。

⑥心臓の動き(脈)を調べる

人工呼吸での効果を確認します。呼吸を調べた時と同じように、頬を近づけ、息があるか、咳込みはないか、顔や手足に動きはないかを見ます。

⑦心臓マッサージをする

循環サインがなければ、心臓マッサージ15回、人工呼吸2回を



繰り返し、救急隊が到着するまで続ける。
※圧迫は左右の乳首を結んだ線の中央を4cm前後押し上げる。

AEDって どんなもの？

AEDとは、心臓の筋肉が不規則に震え、全身に血液を送り出すことができなくなった人に、電気ショック(除細動)を与えることにより、心臓を正常な動きに戻す機器です。
平成17年6月より一般の方も使用が可能になり、公共施設や駅など、多くの方が出入りする場所に設置されるようになりました。



いろいろな種類のものがありますが、音声の指示に従って操作してください。

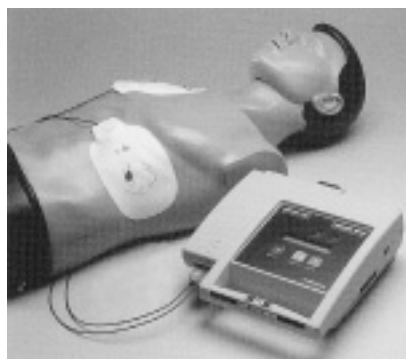
■AEDの取扱要領

①電源を入れる

ふたを開け、電源を入れる。(ふたを開けると自動で電源が入る機種もあります)

②パッドを貼ります

パッドのイラストに表示されている部分に貼り付ける。



AEDの電極パッド貼り付け状況

③解析を行う

AEDが自動で心臓の動きを調べ、除細動が必要か判断する。

④除細動を行う

除細動が必要な場合は充電を開始し、「ショックが必要です」と音声メッセージが流れるので、点滅しているボタンを押す。

消防署では、AEDの使用手法も含めた普通救命講習(3時間)を受け付けています。

皆さん、ご近所の方と受講していませんか？お気軽にお申し込みください。



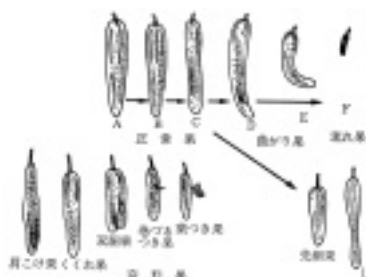
農業講座

しまなみ農業だより 夏野菜の生理障害の原因と対策 (きゅうり、トマト、ナス)

「きゅうり」「トマト」「ナス」は、畑の条件や肥料、水やりなどの管理を上手にすれば長い間収穫できます。

しかし、天候不順や病気・害虫の被害により栽培を続けられないこともあります。植物はモノを言わないので、養分の過不足や環境により、葉や実に症状を現します。今回は主要な夏野菜でよく見られる生理障害の原因と対策について解説します。

■よく見られる生理障害の原因

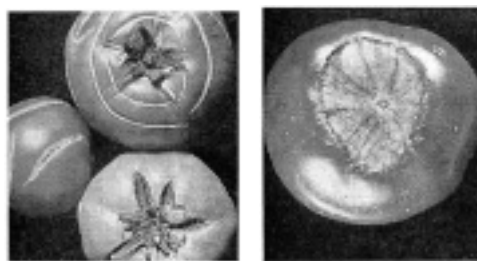


《きゅうり》曲がり果は、実の傷や幼果の素性で発生します。先細りやしり太果は栄養不良、高温乾燥で起こります。左図のような実がなり始めたら肥料をやる時期の目安になります。

また、養分不足になると葉が小さくなり、下葉から色が薄くなります。きゅうりは、肥料と水を十分与え、新しい葉が大きくなれば古い葉を除けていきます。実を遅くまで成らせると草の勢いを弱らせるので早めに収穫することも必要です。

《トマト》トマトは、特に肥料の過不足が生育に影響しやすい野菜です。茎が太く、葉がねじれ、実が太らないようであれば、肥料が多すぎます。

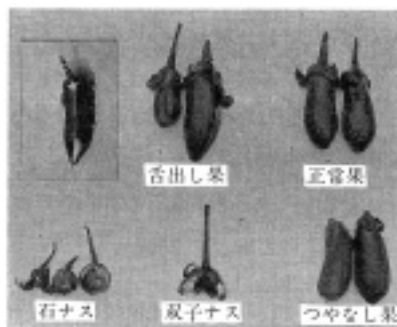
また、葉色が薄く葉が立ち、茎が細く実が留まりにくい時は肥料不足です。実では裂果・しり腐れ果（右写真）がよく発生します。裂果は、夏の強い日差しや低温により皮が老化し、実の太りに皮の伸びがついていけず割れる症状です。しり腐れは、石灰の吸収不足で発生します。土の乾燥や肥料が過ぎる場合などいろいろな原因により発生します。



《ナス》ナスは、きゅうりと同じように肥料と水を十分に与えて育てる野菜ですが、肥料や水の過不足により実や葉に症状を現します。舌だし果、双子なすなどの奇形果は多灌水、栄養過多により発生します。

石ナスは花の受精不良、低温が原因です。つや無し果は水分不足の症状です。

ナスは古い葉を順次除け、枝が伸びて枝が垂れ下がり勢いが弱まるので、枝は葉を1～2枚残し切り返すと新しい芽が出やすく、木の勢いが保てます。木が弱り気味なら7月下旬頃に下図のように枝を切り、肥料をやり、芽を出しかえれば再び良い実が採れはじめます。



- ①果実を長期間収穫する野菜は、正常な実が取れ始めてから、約2週間おきに肥料を株元に施します（追肥）。
- ②晴天が続けば毎日水をやりますが、トマトは葉の伸び方や茎の太さでやや控えめとする方が無難です。敷き草を行い土の水分保持に注意します。
- ③害虫（アブラムシ、ハダニ）や病気（うどんこ病など）の発生に気が付けば、早めに防除をします。発生している葉を除けるのも有効な方法です。

